

中国の深圳市に現存する「城中村」と呼ばれる超高密度集合住宅群を持続的に発展させる再開発計画。環境や経済的不合理性を理由に政府により大規模高層タワーズに置き換えられ、現代的な街並みに統一されつつある開発手法に対して、本提案では都市の中に存在していた村の自然な成長過程を重んじて、村民の個人的合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

BACKGROUND

もともと人口3万人の農村であった深圳市では、1979年の改革開放によって各地が劇的に発展し、最終には住宅のみが売られた。発展という言葉を聞いた農民は自分の村に高層ビルを建てることには賛同をせず、内部から湧き上がる自然な成長過程を重んじている。現存する城中村は、村民の個人的合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

SITE

URBANSTRUCTURE

都市部の中核に存在した城中村によって成立している。周辺地域の構造をもつ、多くの人々が生活を営む。村民は村の中心部に集まり、村の中心部には個人の合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

■研究旅行計画 研究旅行テーマ：スラムの街並み-スラム政策と低所得者向け住宅にみるスラム街の実態とゆくえ- 訪問先：中国・タイ・インドネシア・インド

0.卒業設計について

研究旅行計画を踏まえて、まずは卒業設計について対象とした都市の背景について再考する。

都市に隣接する農村では急速な都市化により、世界に類を見ない都市の成長が進行している。

「城中村」都市の中の村を意味するこの現象は、村民が農村を固く守ることで都市化の進行を遅くし、都市の中心部に存在する。村民は村の中心部に集まり、村の中心部には個人の合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

1.都市部のスラム

このように都市発展に付随して生じたスラム的現象は、深刻な状況でなく、発展途上国を中心とした世界各國の都市部に存在する。産業革命以降、社会経済の発展に伴い、都市から都市部に本拠地を移す人口が急増し、都市の中の都市部にスラム街が形成されてきた。スラムの都市部では土地が不足して発生しているものが多いが、その一方で、都市部には個人の合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

2.スラム政策と低所得者向け住宅

現在に至るまでのスラムを対する対応は、スラム政策により異なる。本提案では、スラム政策の比較と、低所得者向け住宅の比較を行う。スラム政策の比較は、1) 公共セクター (政府/自治体)、2) 民間セクター (民間企業/NGO) によるものである。低所得者向け住宅の比較は、1) 住宅の構造、2) 住宅の価格、3) 住宅の立地、4) 住宅のサービス (学校/病院/公園) によるものである。本提案では、スラム政策の比較と、低所得者向け住宅の比較を行う。スラム政策の比較は、1) 公共セクター (政府/自治体)、2) 民間セクター (民間企業/NGO) によるものである。低所得者向け住宅の比較は、1) 住宅の構造、2) 住宅の価格、3) 住宅の立地、4) 住宅のサービス (学校/病院/公園) によるものである。

3.訪問予定国・地域

3.1 深圳/香港 (中国)

深圳は本卒業設計の舞台であるが、新しい都市開発のスピードが驚異的である。2018年12月1日から1年半以上が経つが、現在の深圳はかつての深圳とは大きく異なる。とりわけ都市部の中心部が変化している。とりわけ都市部の中心部が変化している。とりわけ都市部の中心部が変化している。

3.2 バンコク (タイ)

バンコクは1960年代に工業化政策が推進し、都市部が急激に拡大した。地方から都市への人口流入は本格的なスラムの形成を促した。現在バンコクには100以上のスラムが存在するが、最近では都市部の中心部にスラムが形成されている。とりわけ都市部の中心部が変化している。とりわけ都市部の中心部が変化している。

3.3 ジャカルタ (インドネシア)

ジャカルタのスラムはカンゴンと呼ばれ、都市部が急激に拡大した。地方から都市への人口流入は本格的なスラムの形成を促した。現在ジャカルタには100以上のスラムが存在するが、最近では都市部の中心部にスラムが形成されている。とりわけ都市部の中心部が変化している。とりわけ都市部の中心部が変化している。

3.4 ムンバイ (インド)

ムンバイのダラビには2.2平方キロメートルの敷地に60~100万人の人口が暮らす超高密度スラムがある。ムンバイのスラムは都市部の中心部に形成されている。とりわけ都市部の中心部が変化している。とりわけ都市部の中心部が変化している。

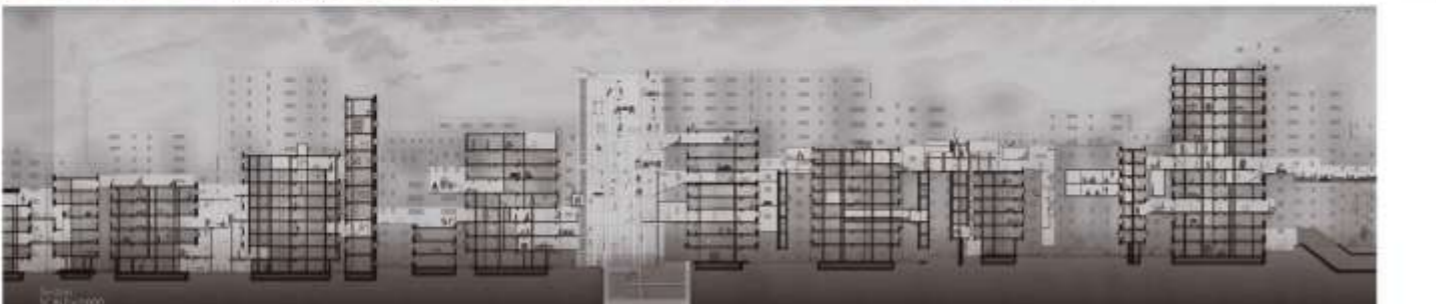
卒業設計のタイトルと概要

「Surviving Villages within the City」
中国の深圳市に現存する「城中村」と呼ばれる超高密度集合住宅群を持続的に発展させる再開発計画。環境や経済的不合理性を理由に政府により大規模高層タワーズに置き換えられ、現代的な街並みに統一されつつある開発手法に対して、本提案では都市の中に存在していた村の自然な成長過程を重んじて、村民の個人的合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。

研究旅行のテーマと訪問予定の国(都市)
「スラムの街並み - スラム政策と低所得者向け住宅にみるスラム街の実態とゆくえ -」
中国(香港/深圳)、タイ(バンコク)、インドネシア(ジャカルタ)、インド(ムンバイ)

STRATEGY

2017年 都市部の中心部を軸とした再開発計画。環境や経済的不合理性を理由に政府により大規模高層タワーズに置き換えられ、現代的な街並みに統一されつつある開発手法に対して、本提案では都市の中に存在していた村の自然な成長過程を重んじて、村民の個人的合理性や活動を許容する段階的な変更を重ねていく。中国独自の土地制度から生まれたエネルギーに満ちた空間を、その土地独特の街並みとして残したい。



呼吸する箱 ~駅空間における新たな公共空間のケーススタディ 新宿駅を対象として~

back ground

・北緯の不足

・商業圏の活性化

日本の都市部では、商業圏の活性化が課題の一つである。新宿駅周辺は、商業圏の活性化が課題の一つである。この課題を解決するために、駅周辺に新たな公共空間を創出することが必要である。また、駅周辺の商業圏を活性化させるためには、駅周辺の商業圏を活性化させる必要がある。また、駅周辺の商業圏を活性化させるためには、駅周辺の商業圏を活性化させる必要がある。

また、駅周辺の商業圏を活性化させるためには、駅周辺の商業圏を活性化させる必要がある。また、駅周辺の商業圏を活性化させるためには、駅周辺の商業圏を活性化させる必要がある。

proposal

1. 駅周辺に新たな公共空間を創出する。2. 駅周辺の商業圏を活性化させる。3. 駅周辺の商業圏を活性化させる。

駅周辺に新たな公共空間を創出する。駅周辺の商業圏を活性化させる。駅周辺の商業圏を活性化させる。

diagram

・plan

・city planning

駅周辺の商業圏を活性化させる。駅周辺の商業圏を活性化させる。駅周辺の商業圏を活性化させる。

plan

駅周辺の商業圏を活性化させる。駅周辺の商業圏を活性化させる。駅周辺の商業圏を活性化させる。

研究旅行計画

concept

「駅舎と駅前広場の関係性について」

駅舎と駅前広場の関係性について。駅舎と駅前広場の関係性について。駅舎と駅前広場の関係性について。

plan

研究旅行計画の概要。研究旅行計画の概要。研究旅行計画の概要。

研究旅行計画の概要。研究旅行計画の概要。研究旅行計画の概要。

Tokyo

東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。

東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。



卒業設計のタイトルと概要

呼吸する箱
 ~駅空間における新たな公共空間のケーススタディ 新宿駅を対象として~
 駅と公共性
 今後の集約化・高密度化の時代において、都市の駅はより重要な生活の拠点となる。しかし、近年の駅再開発では、超高層ビルの建設が主である。超高層ビルの垂直な壁は足元の人々と冷たく対峙する。これに対し、新宿を例に、都市の駅における、人を包み込む新たな公共空間のケーススタディを行う。駅上空を利用することで、容積を補い高さを抑える。また、東西ヴォリュームの軸のずれによって生じるヴォイドを、東京の都市が欧米に比べて、公園や広場が少ないことから、人々の憩い休まる広場とする。

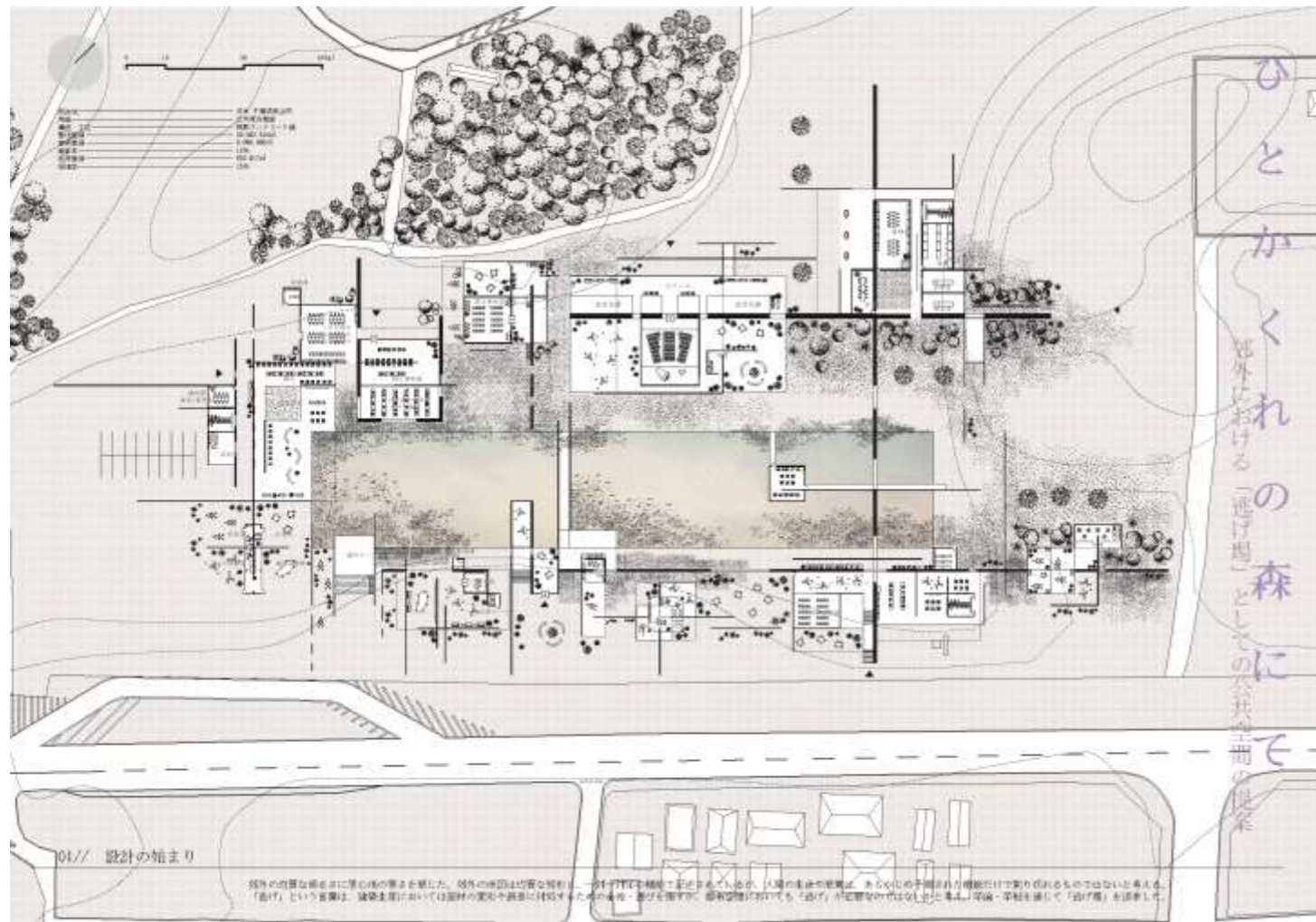
研究旅行のテーマと訪問予定の国(都市)

「駅舎と駅前広場の関係性について」卒業設計では、駅上空空間に新たな公共空間を創出することに一定の成果を残すことができた反面、駅前空間や駅周辺の街路形態との関係性に関しては、検討が少なかったという反省点を残した。そこで、日本では関係性の薄い駅舎と駅前空間の関係性について調査したいと考えた。

Tokyo

東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。

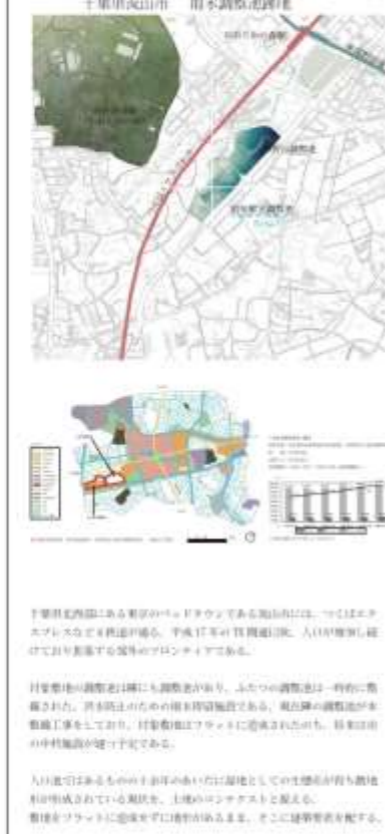
東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。東京の駅周辺の様子。



02// 卒業論文での研究・調査より



04// 敷地



05// 形態生成



研究旅行計画書
千葉大学 竹之下真子

1. 研究旅行のテーマ

人為的に作られた都市における公共空間の創出の仕方を、ソフトとハードの両面から調査する。

卒業設計では現代日本の郊外を対象として、そこに公共空間を創出することを試みた。郊外は今も金田に富が広がっているが、自然発生の農村や宿場町とは異なり、人工的に作られた都市である。日本は伝統的に私的な家の外部よりも内部の秩序を優先してきたことも相俟って、公共空間を意図的に作ってきた経験自体が乏しく、郊外において家の外で憩いの場のような空間を見つけることは難しい。

海外では家の外の公共的な外部空間を優先してきた歴史がある。ギリシア、イタリア、スペインを他のどの都市よりも、尤もは建設された都市であるが、豊かな公共空間を持つ、なぜ豊かな公共空間が残存するのか、それは都市建設時の設計者の意図が功を奏したのか、または長い年月を経て都市が定着することによって生じた結果なのか、その成立要因を実際に訪れてみたいと考える。具体的にはスケッチや写真を通じて公共空間を公共空間たらしめている形態を観察したい。



2. 訪問予定の国・都市・街並み・建築物

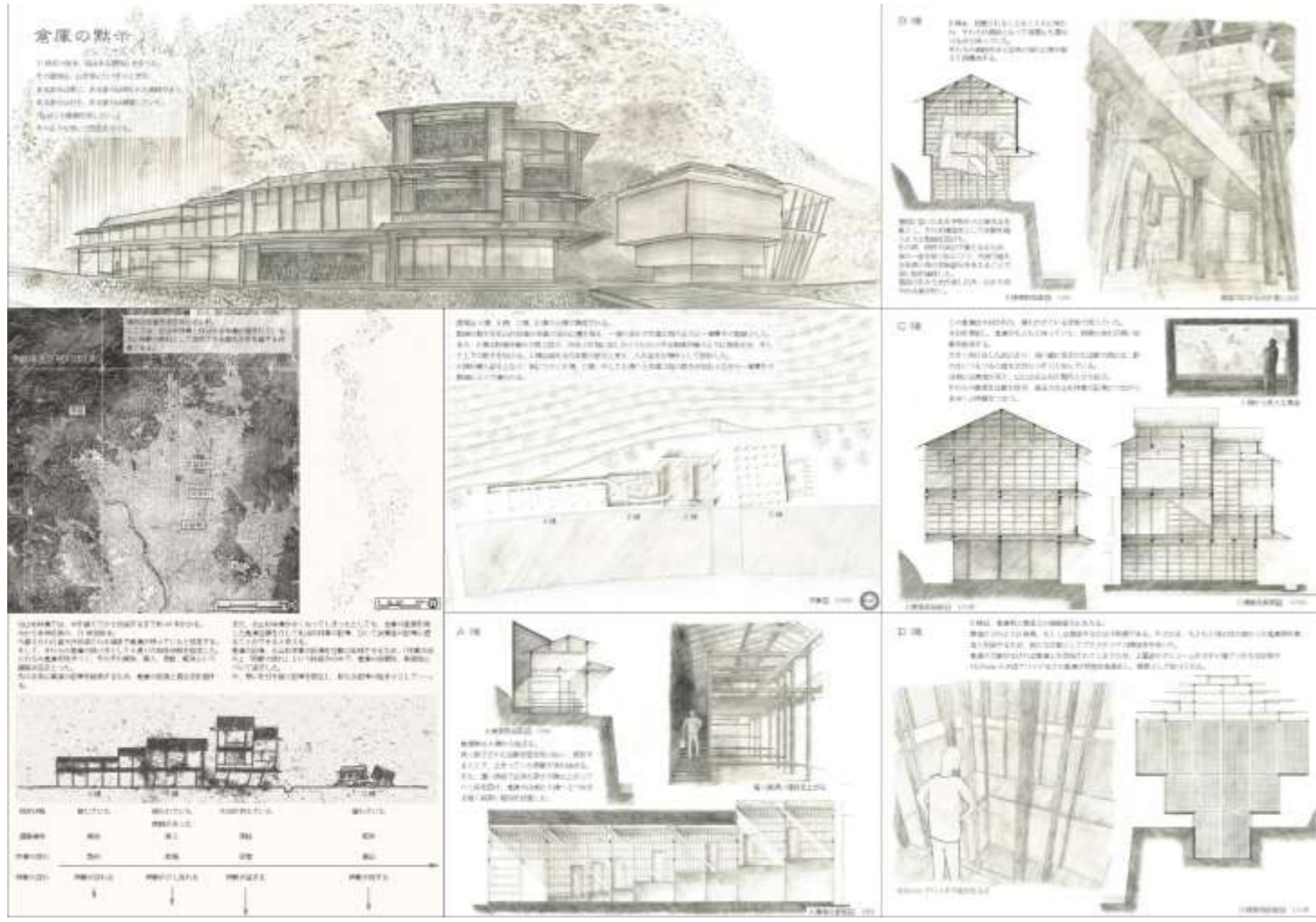
- ギリシア**
セントルーニ島、ミコノス島：地形の上に築かれた都市。
- クロアチア**
ドゥブロヴニク：城壁に囲われ、市庁舎、宮殿、大通りを持つ旧市街が現存。
- イタリア**
ヴェローナ：古代ローマ植民地。円形劇場、エルベ広場など古代ローマ時代からの空間が現存。カステルヴェッキオ美術館のような歴史ある空間を現代に生かす事例がある。
- スペイン**
バルセロナ：城塞都市由来の旧市街の隣りに、19世紀より新市街が広がり、轟轟目次の都市計画。ラサラス大通り。

卒業設計のタイトルと概要

「ひとかくれの森にて」と題して、郊外の貯水池跡に、「逃げ場」という一種の公共空間を作ることを試みた。郊外の街は、あらかじめ決められた機能を割り当てられたハコで構成されていて、息苦しいと感じた。建築生産において部材の変形に対処するための余裕・遊びを「逃げ」と呼ぶが、都市空間においても「逃げ」が必要なのではないかと考え、卒論卒制を通して「逃げ場」を追求した。郊外都市の形態的特徴は微地形を平坦に舗装しその上にハコを置くことである。この手法が余地を奪っていると考え、微地形を残し、「ハコ」を「壁」単位に還元して図面を引いた。結果生じた平坦で都合のよい場所には公共施設という機能を与えた。残された地形と建築要素とが複雑にぶつかり合う場所は、合理的に作られた空間とは異なる質を持ち、日常の機能から漏れたものを担保する空間となる。

研究旅行のテーマと訪問予定の国(都市)

「人為的に作られた都市における公共空間の創出・存続方法」をソフトとハードの両面から調査したいと考える。街の中に公共の憩いの場を意識的に設け、なおかつそれが現代まで存立している都市として、ギリシャ(サントリーニ島・ミコノス島)、クロアチア(ドゥブロヴニク)、イタリア(ヴェローナ)、スペイン(バルセロナ)を訪れたい。



研究旅行計画

① 卒業設計を納めて
 戦後日本は、高度経済成長期を迎えるなど急速な近代化を遂げ、私生活は豊かになり暮らしも楽になりました。しかし、一方で山間部や山間といったその地域の気候や風土に根ざった古くからの建築、人々の生活が失われつつあり、保護の必要性が認識されるようになりました。そのため、平成16年に文化財保護法の一部が改正され、文化財保護法の中で特に重要なるものを「重要文化財」として認定し、保存活用を勧奨する保護制度が設けられました。「重要文化財」として認定されれば、調査事業や保存計画策定事業、整備事業等、文化的価値を保存活用するさまざまな事業に対して、国からその経費の補助が得られます。一方で、「重要文化財」に認定されている地域以外にも文化的価値と呼べるものは日本全国にいくつも存在します。北山杉林業が形成する景観もその一つです。所帯の片持を生産する北山杉林業は、一般住宅建築における気候及び採光の減少によって採材の確保が難しく、生産として成り立たなくなっています。景観内には木材を乾燥させる倉庫や木材を加工する作業場があり、その遺構には北山杉が植えられている山が広がっています。それらの倉庫や山の景観を保存する北山杉林業は必要不可欠な要素であり、またそれは無難に自然の生活の本質でもあります。景観が失われることは重大な問題です。しかし、またその景観にある人々の生活が失われることも問題であり、人々の行動や暮らしを維持することが景観を守ることに繋がると考えられます。

そこで、北山杉林業を産業とする集落に存在する、残存は期待されていない木材を乾燥させる倉庫群を題材に建築設計を行いました。この倉庫群は北山杉林業が盛んであった頃の景観を映すものであり、これらを守りながら新たな建築を創出することで倉庫群を介して北山杉林業の記憶、ひいては景観の記憶に継ぐことができると考え、計画しました。

卒業設計を終えて今林業に興味があることは、木材を生産する林業を背景とした木造建築と密着した関係、そのような関係の中で人々の生活のふるまひがどういったものかということ。木造の経年変化、それらに馴染み出される風景や人々の生活のふるまひについて理解を深めることで、全国的な問題である林業の衰退によって失われつつある景観をどうにか守りたいという思いがあります。

② 研究旅行のテーマ
 「オーストリア・スイスに見る中大規模木造建築が形成する街並み」
 今、EU圏ではサステイナブルな環境建築という観点から木造建築が数多く建設されています。その背景として、石油などが採れたエネルギー資源、環境負荷が大きいコンクリート製や鉄骨造に比べ、森林・木材は材料・建築・廃材利用が出来る循環型資源であるということが挙げられる。特に、オーストリア・スイスでは木造建築が盛んであり、数多くの事例が知られます。数種類の木造建築を見れば、それがどのように造られてきたのか、人々の生活のふるまひを生かしているのかを学ぶことで、今後の私の活動や暮らしにも活かしていきたいと考えています。

② 訪問予定の街並み・建築物の内容



参考文献 卒業論文「京都市北区中川地区における倉庫および倉庫周辺の作業空間に関する調査」

1. 研究の経緯と目的
 京都市北区中川地区にある中川地区は、丹波山の麓に広がる標高600~800mの山間部にある。集落の中央を南北に貫流する中川が流れ、谷に沿って急峻な斜面を形成している。この地域では、古くは室町時代から北山杉林業が主な産業として営まれており、主に所帯の片持として発展した倉庫を主産している。

この中川地区で見られる、北山杉が植栽と立ち並ぶ山と谷間にある瓦葺屋根の別荘と倉庫を有する倉庫が形成する集落が一体となった風景は、文化財保護法で位置づけられている文化的景観（地域における人々の生活又は生産及び自然環境の風土により形成された景観地で我が国固有の生活又は生産の発展のために欠くことのできないもの（文化財保護法第二条）（環境省令より））の存在と考えられる。文化庁により平成19年度に北山杉林業に関する調査が実施され、作業場などの調査が行われた。『文化的景観（北山杉の林業景観）等第1-試行調査報告書（2008年2月）』がまとめられた。また、調査を補完する史料や倉庫などの建築物に関する調査も京都府立大学によって実施されている（『中川地区の集落・田舎（杉林）』2010年3月）。しかし、調査内容は、北山杉「林業」や「建築性」に関するものであり、作業空間の歴史や建築性に関する倉庫周辺の作業空間についてはまだ十分に調査が行われていない。

本研究では、北山杉林業の集落内での作業場を調査するとともに、作業空間の使いかた・構造から作業空間の特性を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の経緯
 京都市北区中川地区を調査対象とし、以下の2つの調査を実施した。

① 林業へのヒアリング調査
 集落内で林業を営んでいると野の林業を営む倉庫内作業場内での作業空間の使いかたについてのヒアリング調査。および倉庫内または倉庫周辺の作業空間の調査調査を行った。A倉庫は倉庫と主屋が隣接して向かい側にあり、B倉庫は倉庫と主屋が分離され、主屋は中川の対岸に、倉庫は中川沿いに位置する。

② 倉庫内の倉庫の空間調査
 集落内で倉庫を営む52宅地を対象とし、宅地内の倉庫、作業場の構造、主屋との関係について実地調査を行った。

3. 作業場と作業空間の構造

研究の一部で倉庫と主屋(③)にある調査倉庫が6000㎡ほどの面積の狭かった場所で10日ほど解体させた。

① 調査
 調査が完了するまで、現場が荒れた北山杉林業(④)で調査される。丸太を保管するまでの作業を4月頃まで行う。

② 丸太の切り出し
 出陣する前に、(前庭前の長い下り)にある仕事場(⑤)で丸太を切り出して、おこなう作業を行う。

③ 倉庫の入口の向き
 倉庫の軒下は倉庫内作業空間となる。特に開口部(⑥入り口)に深い凹みが見られる。この開口部の向きは、南向き(38°)と西向き(42°)が全体の約半数を占める。特に奥山側に向いてみると、丸太の搬入や搬出における利便性から奥山側に向くかたちとなっており、奥山側を軸にして主屋と倉庫の配列関係が対称となり、敷地関係を明確にしている。(図4)

④ 主屋との関係
 主屋とは隣接なく独立した倉庫は14棟に対して、主屋に隣接する倉庫・作業場は38棟であった。北山杉林業は景観林業とも呼ばれるように景観工業として発達し、作業空間と生活空間が一体となっていることがわかる。

⑤ 倉庫の軒下の構造
 倉庫の軒下は倉庫内作業空間となる。特に開口部(⑥入り口)に深い凹みが見られる。この開口部の向きは、南向き(38°)と西向き(42°)が全体の約半数を占める。特に奥山側に向いてみると、丸太の搬入や搬出における利便性から奥山側に向くかたちとなっており、奥山側を軸にして主屋と倉庫の配列関係が対称となり、敷地関係を明確にしている。(図4)

⑥ 主屋との関係
 主屋とは隣接なく独立した倉庫は14棟に対して、主屋に隣接する倉庫・作業場は38棟であった。北山杉林業は景観林業とも呼ばれるように景観工業として発達し、作業空間と生活空間が一体となっていることがわかる。

⑦ 倉庫の軒下の構造
 倉庫の軒下は倉庫内作業空間となる。特に開口部(⑥入り口)に深い凹みが見られる。この開口部の向きは、南向き(38°)と西向き(42°)が全体の約半数を占める。特に奥山側に向いてみると、丸太の搬入や搬出における利便性から奥山側に向くかたちとなっており、奥山側を軸にして主屋と倉庫の配列関係が対称となり、敷地関係を明確にしている。(図4)

3. 北山杉林業の基本作業
 北山杉林業の作業工程は、山での伐採・切り出しから始まり、切り出された丸太を軒下や屋根の残った倉庫内に搬入し、並列や一列並などの整列作業を行う。30t、重機の無い狭い斜面で天日干しを行い、屋根の下で晒干しする。そして、乾燥が終わった丸太を倉庫(納屋)で保管する。最後に、丸太を運ぶ・積み出す作業を行う。丸太は出陣する。

① 伐採
 伐採作業は、山で伐採し、1ヶ月程度山の中で乾燥させた後、作業場まで下りし、丸太の表面の皮を剥く工程である。皮は剥ければ納屋の裏手にある②に設置されたかまぼこ機を使用して行われる。イケ上は、丸太を砂で覆って乾燥させた水を溜める場所である。

② 晒干し
 納屋(丸太を保管する空間)の隣に1階建ての③にある製材機で、乾燥時の平割れを防ぐために、手の切り込みを入れる育割り作業を行う。

③ ケント
 太で覆われ方々の上に丸太を乗せ、ケントをする。ケントとは、ナタを使い丸太の片方の角を落とすことで、丸太を立てやすく、また乾燥もよくなるための作業である。

④ 乾燥(天日干し・晒干し)
 納屋と主屋に置かれた平割(⑤)と倉庫内に置かれた平割(⑥)の2ヶ所で、1週間ほど天日干しにより乾燥させる。その後、

卒業設計のタイトルと概要

倉庫の黙示
 21世紀の後半、私はある建物に出会った。
 その建物は、山を背にひっそりと佇み、
 ある部分は閉じ、ある部分は使われた痕跡があり、
 ある部分は朽ち、ある部分は崩壊していた。
 「私はこの建物を残したい。」
 そのような想いで設計を行った。

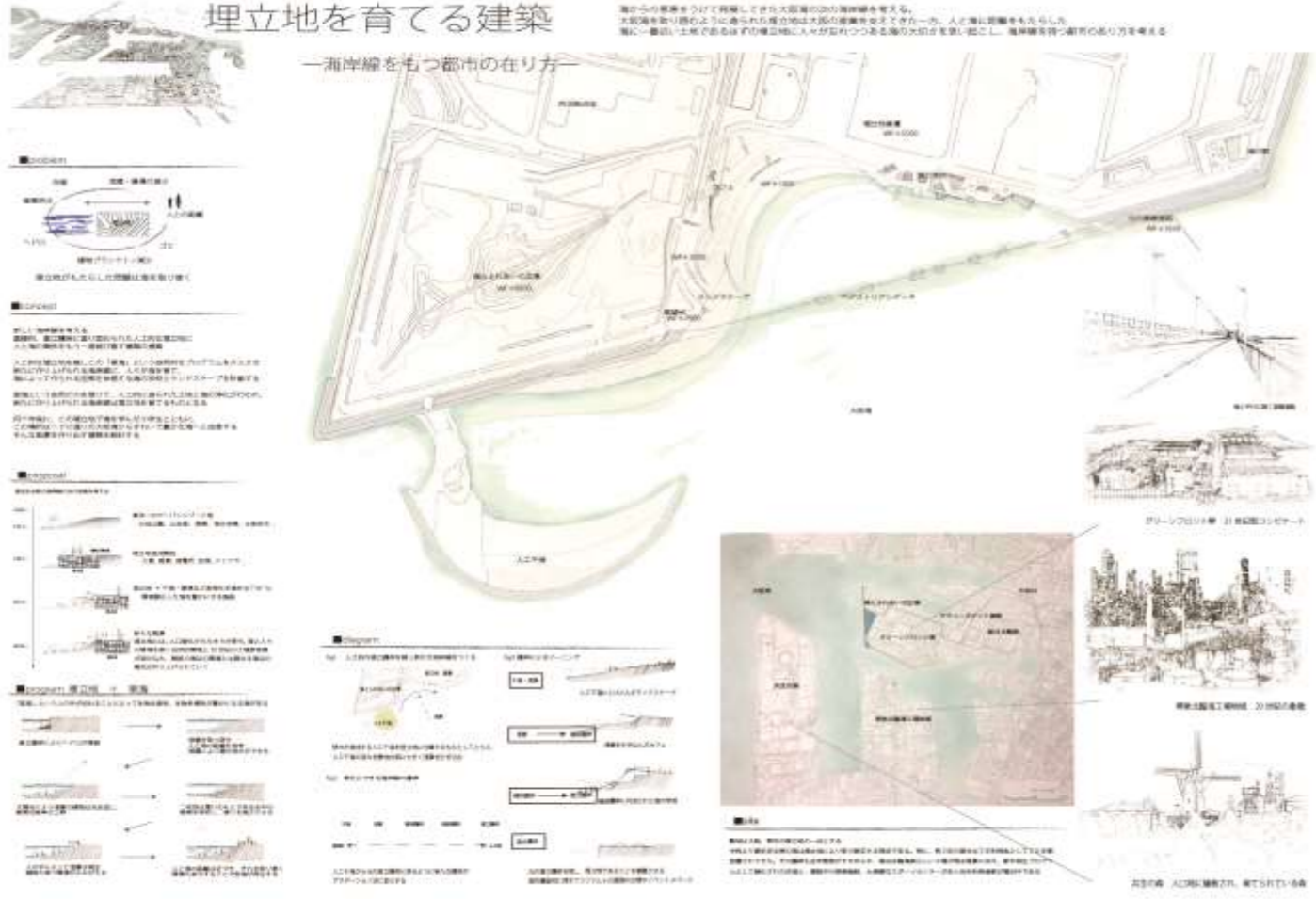
研究旅行のテーマと訪問予定の国(都市)

オーストリア・スイスに見る中大規模木造建築が形成する街並み
 オーストリア、スイス

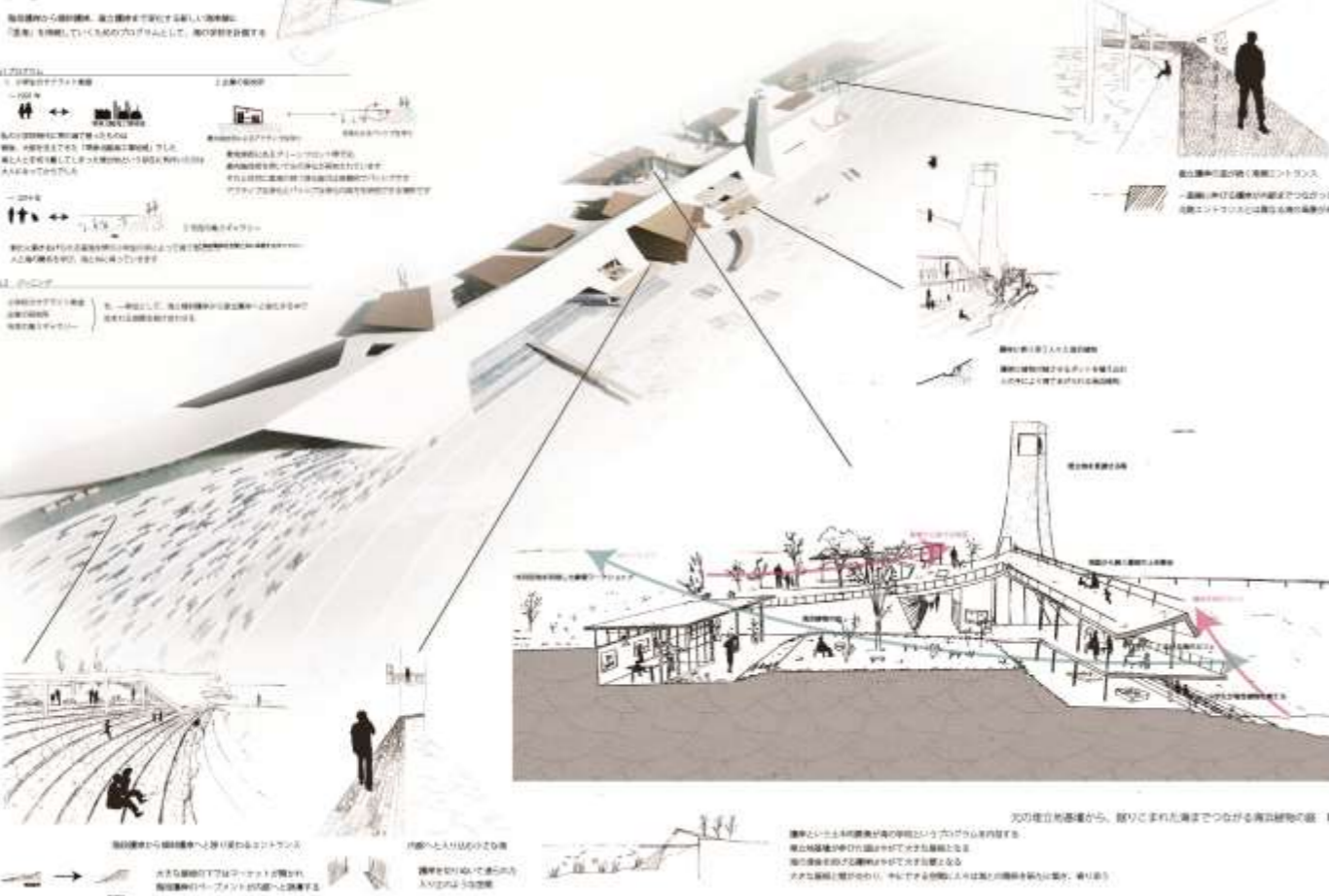
埋立地を育てる建築

海からの恩恵を受けて発展してきた大阪湾の新しい海岸線を考える。
大阪湾を取り囲むように造られた埋立地は人と海に距離をもたらした。
直線的、直立護岸の人工的な埋立地を崩し、そこに里海という自然的なプログラムを導入させ、人と海の関係をもう一度結び直す建築の提案。

一海岸線を持つ都市の在り方



program 一海の学校一



卒業設計のタイトルと概要

「埋立地を育てる建築 一海岸線を持つ都市の在り方」
 海からの恩恵を受けて発展してきた大阪湾の新しい海岸線を考える
 大阪湾を取り囲むように造られた埋立地は人と海に距離をもたらした
 直線的、直立護岸の人工的な埋立地を崩し、そこに里海という自然的なプログラムを導入させ人と海の関係をもう一度結び直す建築の提案
 何十年後かに、新たな海岸線を作りながらヘドロ溜りの大阪湾からきれいで豊かな海へと成長していくそんな風景を考える

研究旅行のテーマと訪問予定の国(都市)

2010年、NY近代美術館で行われた展覧会「ニューヨーク市のウォーターフロントへの提案」をきっかけにNYでは、世界各地で問題となる埋立地の今後の利用、提案、新たな海岸線の展望が見える。その新しい街、海岸線の造られ方を見て、自分の卒計と現実との問題点や今後の希望となるものをあらたに見出したい。



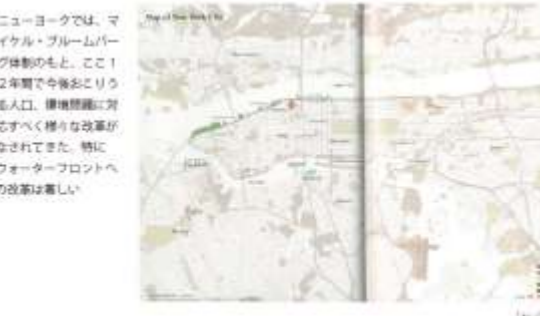
(1) 研究旅行のテーマ 古さと新しさが混在する街並みとその海岸線の接点の造られ方を見る 【旅行先：ニューヨーク】

世界の経済・流行の最先端がひしめくニューヨークでの研究旅行のテーマとして2つあげる。まず1つ目に、アール・デコ建築が象徴される摩天楼から現代建築まで混在するその街並みを見て、古い建築の都の中に造られていく新しい建築の在り方を知ること。2つ目に、街並みとその外側を形成するウォーターフロントの新たな造られ方を見て、その場所でいられるアクティビティを感じること。20世紀の街並みを背景に新たなウォーターフロントの提案が進められているニューヨークは自分の卒業制作のテーマであった「新しい海岸線」をリアルに行っている(行おうとしている)都市であり、自分が向き合った埋立地の問題の現実的な問題点や今後の希望を見いだせるのではないかと考える。ヨーロッパのように保存されていく街並みに対して、更新されていく街並みの一面をみること、日本の中での埋立地を再考するきっかけを作りたい。特に、大阪湾の埋立地のように、広大な未利用地があり、新しく造られていく街は今後、経済的・機能的なところだけで造られるのではなく、ニューヨーク市の提案のように、環境配慮によるデザインされた提案がより期待されるところである。

二MoMAで行われたNYの新たなランドスケープの提案



三ブルームバーグ体制の元行われてきた都市計画



(2) 訪問予定の外国の都市・街並み・建築物の内容

超高層ビルが広がるニューヨーク、建物のそそり立つビジネス街には、様々な様式の建物が数々ある。1913年 ウールワースビルの初期ゴシック・リヴァイヴァル建築にはじまり、1930年クライスラービルのアール・デコ調。2000年のカンディ・ナスト・ビルディングではグリーン・デザインが採用され、様々な様式が集まり街並みを進めてきた。そんな中、2002年よりニューヨーク市の市長となったマイケル・ブルームバーグ体制のもと、今後起こりうる人口増加、都市インフラの老朽化、気候変動などの課題をクリアすべく、新たな街のイノベーションが進められてきている。この可変性のある都市における変革は、ニューヨークだけでなく世界様々な場所へも問題提起されるべきところである。超高層の中で行われる新たな建築の在り方、汚染された海岸につくられるランドスケープ、その海岸と街の接点の作り方、ニューヨークは動き続けている街並みであり、特に環境問題が重視される今、新しい街並みのデザインが様々な形によりていあんされ、実践されている。そういった新しい街の作り方が人々や周辺環境にどのような影響を与えるかというところを実際に体験してみたいと考える。

